

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年4月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102807
法人名	有限会社 メイザン・メディカル
事業所名	グループホーム いこいの泉
所在地	鹿児島県鹿児島市泉町9番5号 (電話) 099-805-3590
自己評価作成日	平成24年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成24年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者が形にとらわれず自由きままに生活している。
- ・その人らしく生活している。
- ・できてもできなくても、その方の思いを大事に、可能な限り計画し実現に向けて取り組んでいる。
- ・五感に刺激を受ける臨床美術に取り組んでいる。
- ・5月に日帰り旅行を計画中、入居者の「温泉に行きたい」の声があるので今年の実現に向け計画中
- ・近隣の公園で、夕食後甚平を着て、手持ち花火をしてスイカ割りをして、割ったスイカを食べて夏を感じている。
- ・毎月、ヒヤリ・ハットを基に事例検討会を行っている。職員が入居者となり思いを知る為に立場を変え劇を行い、何をどうしたかったのかを知り、事故防止や身体拘束の予防に努めている。

- ・事業所全体として、理念である「明るくやすらかにその人らしく」の実践に取り組んでおり、職員は定着率も高く、家族にとっても親しく相談しやすい環境となっている。また、認知症介護の専門性を重視しており、常勤者は有資格者であり、家族から信頼できる介護職員としての支援を評価されている。

- ・ホームの広報誌を作り、年4回地域へ配布したり、地域住民をホームの行事へ招待し参加してもらっている。また、踊り等の慰問の受け入れや日常的に近隣の散歩をしたり、近くの商店での買い物なども、地域との交流に役立っており、地域とのつながりを大事にしている。

- ・家族会の開催や運営推進会議へ多くの家族が参加している。家族と一緒にバイキング食事会の開催など、日頃から家族との関係づくりに努めている。

- ・協力医療機関が近くにあり、緊急時にはスムーズに対応ができる連携体制ができており、利用者や家族にとって安心できる環境である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事あるごとに地域の中で生活させて頂いているということに触れて、共有につなげているが時に流されている傾向にある。	理念は玄関に掲示し、パンフレットにも載せている。事業所全体の運営会議や月1回のミーティング、勉強会等で理念について確認しており、地域に密着したサービスが提供できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣とのつながりは限られているものの病院受診等の行き来などであいさつを始め交流を行うように努めている。	町内会に加入し、地域住民がホームの行事に参加している。また、踊りの慰問など季節毎の行事に地域からの訪問がある。散歩や近くのスーパーマーケットへの買い物なども、交流に役立っている。地域用に広報誌を作り、年4回配布したりして地域とのつながりを大事にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議を活用して、理解を深め、当ホームでの取り組みを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価を踏まえ、外部評価での助言を報告して、家族や第三者の意見を聴いて話し合っ意見を参考にして改善に取り組んでいる	会議には、利用者や家族・地域住民・地域包括支援センター担当者等が出席している。家族の出席も多く、防災訓練を同日に行う等の工夫もしている。活動内容等を説明し、意見交換を行い、意見等を職員会議で報告しサービスの質向上に反映させている。また、外部評価の結果についても報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者や日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>地域包括支援センターと連携を図り運営推進会議の参加でホームの状況報告、他事業所の情報を教えて頂いている。</p>	<p>市役所が近くにあり、生活保護受給の利用者もおり、必要に応じて担当課への相談や情報交換を行っている。また、日頃から地域包括支援センターと連携を図り協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止推進委が各ユニット2名ずつおり、身体拘束ばかりでなく、言葉遣いで心の拘束を含めて、施設長の意見も反映できるような時間の工夫をしている。</p>	<p>身体拘束をしないケアについては、事業所の基本方針があり、同意書もある。身体拘束廃止推進委員会にての話し合いや勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、日中は鍵をかけないケアを実践し、利用者が安全に生活ができるよう取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>任意団体での研修の参加を行い、自らのホームでの振り返りとして参考にしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要に応じて勉強会に取り入れている。が難しい内容なので専門的に聴ける研修などへの参加に心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前に事前に来訪して頂き、説明している。大事な事項に関しては詳しくしているつもりです。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議での、意見を参考に運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置しており、利用者からは、日常の支援の中で意見や要望を聞いている。家族からは運営推進会議や年2回の家族会時や面会時に、要望や意見を聞き、職員全体で話し合い解決できるように努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営に関することを含めて、年1回自己評価を行い代表者との面談を設け最後に管理者が面談して頂いて改善を図れるようにしている。</p>	<p>毎月のミーティング等で、職員からの運営に関する要望等を聞いている。代表者は年1回の個別面談日をもうけており、管理者も面談日の他、現場にて日頃から職員とコミュニケーションをとるように心がけている。日常的に意見や要望等を聞き、勤務条件の希望についても配慮している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>面談時に来年の抱負をあげてもらい、実現できるように努力している。管理者は代表者に必要に応じて相談している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>最低年1回はホーム外研修に参加できるように研修計画を立て参加しミーティングで報告して頂いている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>任意団体への加入でお互いの事業所同志の交流も盛んになり勉強会への参加や見学を通してお互いの良いところを取り入れている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	実施状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>馴染んでいらっしゃる方より係わる時間を多くしている。皆の会話に入りやすいように職員が間に入ったりとしている。</p>	
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>何に対して困っているのか？先ず聴いてわかりやすく説明し、いつでも連絡して下さいと声かけ連絡しやすいようにしている。</p>	
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>予約いっぱいであっても電話での説明・見学をして頂いている。状況によってはその方に合ったサービスを紹介したりしている。</p>	
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>時に流されつつあることもあるが、主体は入居者であることを折りに触れ声掛け合い協働することを大切にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるのは先ずご家族であり、私達であること。ご家族とは面会時に限らず電話でも報告、相談している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで親しくしてきた方の来訪もある。遠縁になった方のことを話されたりしたら、身近にされている方に伝えて再会の工夫をしている。	街の中心地にあり、交通の便もよく、知人や友人の訪問が多い。手紙を出す手伝いをしたり、関係を継続できるように支援している。自宅への外出等や理容・美容院へは、家族の協力をもらい実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性の強い面々なので難しいが私達が間に入り誤解が生じないようにお互いの関係調整をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	せっかく頂いたご縁と出会いなので大切にしている、相談の電話などくるもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意志や言動を記録に残し、職員間で共有し思いを把握するように努めている。困難な場合は時間をつくりゆっくり話を聴いたりご家族とも話し合っている。	利用者と日々のふれあいの中でのコミュニケーションを大事にしている。その上で、利用者の思いを、職員で共有できるように努めている。意志疎通が困難な人には、家族から情報を得ており、本人の意思を尊重した生活ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	教えて頂ける範囲で情報収集している。ご入居してからは本人からのエピソード記憶などを随時記録して共有している。各		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人日によりけりなので、職員同志「今日は大丈夫かもね」と確認しつつ出来ることにつなげている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の言動を基に記録し職員同志、本人、家族の要望を取り入れ全員参加できるような工夫をしている。	利用者や家族の意見を聞き、毎日の暮らしぶりをもとにカンファレンスを実施し、利用者一人ひとりについて現状に即したプランになるように作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行い、介護計画の見直しは6ヶ月毎であるが、状態が変化した場合に随時見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>本人の言動がプランの何に合うか考えて記録ができるようにし、そのことで周知徹底できるようになってきている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>他方面から柔軟に物事考えられるように研修参加で多くの人とのコミュニケーションを図れるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を文書している地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>警察、消防や、協力病院との連携体制もとれているので安心で、安全な公園やデパートも近いので豊かな暮らしを楽しむことができる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームの協力病院に限らず他病院でも電話などで相談助言を頂いている。ご希望があれば以前からのかかりつけ医の継続も可能である。</p>	<p>希望のかかりつけ医への支援体制を整えている。協力医療機関がすぐ近くにあり、通院は職員が対応している。協力医療機関が2週間に1回、歯科の往診が週2回、他診療科の一部往診もある。協力医療機関との連携ができており、利用者や家族にとって安心できる支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院は歩いていける距離であり必要に応じて受診している。又、2週間おきの往診や相談しやすい先生もいらして健康管理に努めている。夜間緊急時は当直看護師が来訪して下さる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者により主治医が異なるので相談員に間に入ってもらっている。ホームからの面会をした場合は電話で報告し状態の把握の共有に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人の状態に応じて早めに家族と協議し方向性を定め、職員にも報告し医療との連携を図っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた対応については、入居時に事業所の方針を口頭にて説明している。終末期になった場合には、家族や職員・関係機関と十分に話し合う方向性を確認し慎重に対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアル化しているが全員がきちんとできるかは定かでないため月1回の事例検討会で緊急時の対応にも備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災をはじめ地震を想定し規定の年2回及び自主訓練を1回設けている。</p>	<p>避難訓練は、年2回実施し、自主防災訓練も年に1回行っている。消火器の訓練もしている。災害時には近くの協力医療機関との協力体制もできている。また、運営推進会議の日に訓練を実施するなど、家族等にも参加してもらおう工夫もしている。非常時の食料や水を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持ち一人一人の人柄、誇りを大事にプライバシーを損ねないように心掛けている。	利用者の人格の尊重とプライバシーの確保については、勉強会で話し合っている。特に、利用者に対する言葉使いやトイレ誘導時の声かけなど確認している。その上で、信頼関係を大事にしたプライバシーの確保や人格を尊重した支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食材切りや、盛りつけに味見など又、洗濯物たたみ等その方に応じて出来ることをして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の性格やペースに合わせている。広告をみて急に外出したり、事前に本人が決めてパーマをかけに行ったりする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人らしい格好を大事にしている。特に外出前は一緒に服を選びから始まるので一層楽しみが沸く。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの説明、献立の相談に味見、切る音、においを感じて頂けるように五感に刺激を与えている。	利用者の希望を聞きながら献立を作り、食材購入も一緒に行ったり、利用者が五感で食事を楽しめるよう支援している。家族も参加してのバイキング食事会や外出時には弁当を作っている。利用者も下ごしらえ、後片づけなど手伝っており、職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができる支援をしている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥の方や必要に応じて刻んだり、食器の工夫もして食べやすいようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは実行している。出来ない方にはお手伝いしているが声かけだけの方にはそれで終わっていることもある？ので確認をしていかねばと思う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の訴えや行動で誘導している。決まった時間の誘導ではなくその方の排泄パターンでさりげなく声かけ誘導している。	排泄チェック表を作成し、時間や習慣を把握している。利用者一人ひとりに、適時にさりげなく声かけを行い、トイレ誘導をしてできるだけおむつをしない、排泄の自立に向けた支援を行っている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼らずホーム手作りのヨーグルトを1日1回食べて適度な運動をして予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ゆっくりと時間をかけていつでも誰でも入れるように毎日沸かしている。気持ちがほぐれて会話も弾む。	入浴は、日曜日を除き毎日できるように準備してある。入浴は週に3回程度であり、利用者の希望を尊重している。一人ひとりのそれぞれのペースで入浴を楽しめるように、配慮しながら個別に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室ソファに横になったり、リビングでうたた寝していたりすれば風邪ひかないように自室へゆっくり休めるように声かけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに内服状況（副作用も記してある）を綴じていつでも見れるようにしている。居宅管理薬剤指導もあって相談しやすく助言も頂きやすい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回、日1回はその方が輝く時間が（どんな形であっても）あるようにお手伝いしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に外出は行っている。個人の要望に合わせて外食もしている。遠方への外出はご家族様同伴も可能で入居者、家族、職員も皆で楽しんでいる。	日常的に天気のよい日は、散歩したりして、外出支援を行っている。家族も参加しての花見や苺狩り、日帰り旅行を実施している。本人の希望で外食や温泉についても、家族の協力をもらいながら、できるだけ希望に添えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の力量に応じて対応している。預かり金から必要な金額渡して支払いも見守りの中行って頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>いつでも電話がきたり掛けたりしている。又、手紙も書いてもらっしやるので表書きだけお手伝いしたりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>四季折々に花を飾ったり季節感を感じて頂けるようにしている。又、不必要な音（テレビの音、スリッパの音）は控えたり、室温・湿度にも気をつけている。</p>	<p>共用空間は、ゆったりとして、花が飾られ利用者の作品や写真などが展示されている。季節感を大事にした飾り付けがされている。室温や湿度にも配慮され、開放的で家庭的な温かさを感じさせる。隣には和室の談話室があり、ソファもある。ゆっくりと落ち着いてすごせる環境になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室にソファがあり指定席のようにになっている。が自由に座れる。会話が弾み笑い声が聞かれると私達から「どうした？」と言うくらい楽しそうにしている場面がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の協力で写真を飾ったり、観葉植物・仏壇を置いたりしてその人らしい部屋になっている。</p>	<p>居室は洋室で、ベッドとタンスと洗面所が設置されている。居室には、本人の使い慣れた家具や仏壇・手作り作品・家族の写真等が飾ってある。家族用に椅子やテーブルを置いている利用者もあり、安心して暮らせる配慮がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>その日の体調を考慮して、できること・できないことを見極めて手を出しすぎず、できないことに対してはできるところまでお手伝いして見守っている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない